

(別記)

若桜町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

若桜町は山間地にあり、日当たり、作土、圃場等の条件も悪く、野菜等の推進が困難となっている。その中で稲作を主体に野菜（白ねぎ、ブロッコリー、アスパラガス）、畜産、果樹等を組み合わせた複合経営による農業生産を行っている。現在、過疎化に伴う農家人口の減少と農業従事者の高齢化は著しく、耕作放棄地が拡大している。また、鳥獣被害の増加や後継者不足等により生産意欲の減退が危惧されている。地域特産物の育成と農地中間管理事業を活用しながら、担い手への農地集積及び集落営農組織の設立により小規模農家の作業負担軽減を図り、耕作放棄地の拡大に歯止めをかけなければならない。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米の需要減が見込まれるが、次の2点に取り組む。

- ・農作業受託組織等の育成と作業集約によるコスト削減。
- ・中山間の日較差の大きい気象状況を生かした高品質な米生産による若桜米のブランド化の推進。

(2) 大豆

- ・排水良好の地域に作付を推進し、現状の作付面積を維持する。

(3) そば

- ・「そば」は、特産作物の生産拡大と加工品の開発を地域交流組織「吉川Y Y C」等と進め、健康食品として道の駅若桜「桜ん坊」等に販売していく。

(4) 高収益作物（野菜等）

ア 白ねぎ

- ・J Aが展開する白ねぎ倍増プランにより、山間地域への導入や既存生産者の増反を進め、いなば地域の主要作物として産地の拡大を図る。

イ 地域特産作物（ブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆、エゴマ、なた豆）

- ・従来から推進している地域特産作物であり、ブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆、エゴマに、高齢者でも取り組みやすいなた豆を加え、引き続き作付拡大を推進し、生産組合での販売やJ A等と連携した販売体制の強化を図る。

ウ 直売作物（ネギ、ほうれん草、小松菜、玉ねぎ、馬鈴薯等の野菜全21品目）

- ・少量多品目の作物が求められる道の駅若桜「桜ん坊」等への出荷量を確保するため、直売所向け野菜の作付拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	139.9	138.1	140.0
大豆	0.1	0.4	0.2
そば	2.2	2.1	2.2
高収益作物	8.9	9.4	10.5
野菜	2.3	3.1	3.5
白ねぎ	1.1	1.5	1.6
ブロッコリー アスパラガス 夏だいこん	1.1	1.4	1.5
ナタ豆	0.1	0.2	0.4
エゴマ	6.3	6.0	6.5
小豆	0.3	0.3	0.5
直売作物 ・ネギ ・ほうれん草 ・小松菜 ・玉ねぎ ・馬鈴薯 他	2.7	3.0	3.0
合 計	153.8	153.0	155.9

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値(32年度)	
				現状値(29年度)	目標値(32年度)
1	白ねぎ	白ねぎ作付助成	作付面積	1.1ha	1.6ha
2	ブロッコリー アスパラガス 夏だいこん ナタ豆	高収益作付助成	作付面積	1.2ha	1.9ha
2	小豆	高収益作付助成	作付面積	0.2ha	0.5ha
2	エゴマ	高収益作付助成	作付面積	5.2ha	6.5ha
3	直売作物 ※個表に記載の21品 目	直売作物作付助成	作付面積	1.3ha	1.8ha
4	そば	そば作付助成	作付面積	1.3ha	2.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり